

憧れの人物

会員 谷村 孝一

1 この度、東京弁護士会のクラス別研修でのご縁で、70期リレーエッセイ執筆のお話をいただいた。今まで原稿の執筆依頼等受けたこともなかったので、ありがたいお話だと思い、お受けすることにした。ところがいざ書こうとすると、何を書かかが決まらない。執筆の目的を明らかにしようと思ってエッセイという言葉の意味を調べてみると、自由な形式で気軽に自分の意見を述べた散文という意味らしく、どうやら何でもありということが分かった。結果、ますます何を書かか分からなくなった。通勤時間に本を読むのでその感想でも書こうかと思ったが、この業界、読書家の方も多く、たまに本を読む程度の私が感想を語るのは恐れ多い。結局題材を色々考えているうちに、ふと思いついたのは、自分の憧れのスポーツ選手について語ることだった。中学生の頃から雑誌や動画で追いかけて続けた選手であり、多分、この選手を語ることでできそうな気がした。そういう訳で私の憧れのスポーツ選手、プロテニスプレイヤーのロジャー・フェデラーの魅力について語ってみたい。

2 テニスに興味のない方でも、フェデラーの名前ぐらいいは聞いたことがあるかもしれない。それもそのはず、彼の実績は、現役の選手との比較だけでなく、歴代の選手と比較しても格別である。グランドスラム（テニスの大会で最も権威のある大会で、全豪オープン、全仏オープン、全英オープン、全米オープンの総称）の優勝回数は20回で歴代1位（しかも4大会の全てで優勝経験がある）、世界ランキング1位在位期間歴代1位（通算で5年超）というだけでも、彼の実績の凄まじさが分かる。

だが、彼の魅力は、その圧倒的な強さだけでなく、オンコート、オフコートを問わない振る舞いの紳しさにもあると思う。

例えば、試合中、どんなミスをして我を失って叫んだりラケットを折ったりするようなことはほとんどないし（当たり前と思う方もいらっしゃるかもしれないが、プロの試合を観ていると結構ありがちな光景である。彼らは十数センチ打点がずれるだけでもミスになるぐらいのシビアなレベルで試合をしている）、試合後のインタビューには誠実に大人の対応をする。ちなみにインタビューには3か国語（英語、フランス語、ドイツ語）で対応できる語学力もある。

3 私から見れば、フェデラーは非の打ちどころのない人物である。しかしそんな彼も、どうやら若いときからいきなり完璧な人物だったというわけではないらしく、未熟なところもあったようである。勿論、当時から技術的にはずば抜けて他の選手を圧倒していたものの、精神面は成熟しておらず、むしろ悪童とさえ言われており、ラケットをコートに叩きつけたり、審判に悪態をついたりしていたようだ（そのほか、合宿で施設に宿泊した際、談話室のカーテンが破れるように、あえてカーテンの近くで素振りをしていたという話も聞いたことがある）。

しかしキャリアを形成していく中で、感情をコントロールする重要性を認識し、練習を重ねて現在の振る舞いを身に付けた。

4 フェデラーも昔は未熟だったという話を聞くと、いつか彼のようにになりたいという希望を持たずにはいられない（勿論今からテニス選手になろうと考えているわけではない。人間的にという意味である）。とはいえ現実をみとみると私は既に27歳。彼が27歳のときには既に世界ランキング1位歴代最長記録を樹立していた。もう、いつかなどと言っている歳ではない。今から頑張っていこうと思う。